

真剣味



INTERVIEW

内定者インタビュー

株式会社山梨放送

岡本桃香さん

オムロン株式会社

香西健太郎さん

りそなグループ

宮川大輝さん

裁判所事務官

渡邊将圭さん

今年の就職戦線振り返り～来年の展望～

オープンキャンパス2019／公開講座アンソニー・アービン水泳クリニック

工学部学生選抜チームがロボカップジャパンオープン2連覇／IPA「未踏IT人材発掘・育成事業」に採択

工学部・野浪亨研究室 イノベーション・ジャパン2019に出展

スポーツ科学部・来田教授が「日本スポーツとジェンダー学会」で学会賞を受賞

INTERVIEW #1

内定者インタビュー

岡本桃香さん

(現代社会学部4年)

株式会社山梨放送

昭和29年3月に株式会社ラジオ山梨として設立し、7月からラジオ放送を開始。昭和34年12月にテレビ放送をスタートした。昭和36年に現在の山梨放送に名称を変更し、平成18年7月に地上デジタル放送を開始した。テレビは日本テレビ系列、ラジオはJRN、NRNに加盟している。

就職活動は「精神面、体力面で大変でした」

「アナウンサー」という夢を語ったのは中学2年生が最初だった。本気で目指し始めたのは大学2年生の頃。将来を現実的に考えるようになり、就職活動を開始した。

「アイドル、モデル」と「サッカー部マネジャー」

学生時代に打ち込んだのは「アイドル、モデル」と「サッカー部のマネジャー」。

高校に入学し、スポーツ分野などですでに活躍している同級生が周りにいたのを見て「自分は何にもないんだな」と思った。「自分も好きなことで活躍したい」と、高校一年の頃に憧れていたアイドル活動



を始めた。

大学に入學するとタレント業とサッカー部のマネジャーを両立する生活が始まった。これまでのマネジャーとしての事務的な作業に加え、自分だからこそできる仕事をしたいと考え、大会前にモチベーションビデオを制作して選手の技術力やモチベーション向上に力を入れた。またSNSなどを駆使して、注目を集めることにも注力した。

沖縄で23日間のラジオパーソナリティー

岡本さんはアナウンサーを目指すため、沖縄県のFMラジオ局で23日間インターンシップを経験した。そこでパーソナリティーからカメラ、掃除など幅広い仕事をこなした。アイドルやモデルは与

えられた仕事をするのが重要。だが、FMでのインターンは自分で取材を行って編集し、完結して話を終わらせるよう考えるなど、これまで経験することがなかった働き方で毎日勉強になった。

アナウンススクールにも通い、テレビ業界の話も聞いた。「アナウンサーは狭き門と知っていたので、落ちる覚悟もしていました」と話す。エントリーシートは50社以上に送り、1週間、連日試験が続くことも。覚悟はしていても1次面接が通らないことが続く精神的に疲れた。試験では筆記もさることながら、面接やカメラテストが難しく、特にタレントの経験があったことで他の人より慣れていると見られたせいか面接が通らないことが続いた。

それまでモデルやタレント経験のエピソードを中心に語っていたが、ある日面接担当者に「タレント以外のエピソードを聞きたい」と言われた。アイドルの経験は「アイドル一般」について語ることが多くなりがちで自分自身について伝えられていないことに気が付いた。その後、

考えを変えてサッカー部でのマネジャーの経験を話すようになると、面接を通してすることが多くなった。

また面接ごとに母親が「振り返り」をしてくれたことが大きかった。面接での失敗などを指摘してもらえたことが次の面接につながった。

経験から生きたこと

「アイドルを経験したことで、自分は一番ではない」ことに気がきました。それが（不合格が続いた）就職活動中のメンタル維持につながりました。面接になるとスイッチが切り替わる部分もアイドルやモデルをやってきたから。落ち込んでも引きずることなく次につなげることができました。

これからの目標

山梨放送は全国高校サッカー選手権大会の主催もしている。「サッカー部のマネジャーの経験を生かして、サッカー中継など何らかの形でスポーツに携わりたい」と目標を語った。



上/FMよみたんでのインターンシップ 下/岡本さんのスケジュール帳

COMMENT

中京大学サッカー部
朝倉 吉彦 監督



「二足のわらじ」という新しいパターン

初めから「マネジャー」と「タレント」を両方やりたいと入部希望をしてきました。『「二足のわらじ」でやるのは自由だけれど、両方中途半端になるようだったら辞めてもらってかまわない』という話はずっと思ってきました。

多様性にマッチする人材

ただ5年前なら最初から認めていません。今や企業も副業を認めるなどマルチな人材を求めています。こういった世の中の動きに自分もアップデートすることができたのかな、と思います。

岡本さんは、今まで失敗もありましたが仕事を全うしてきました。中途半端だと選手にも迷惑が掛かり何と言われるようなこともあるかもしれませんが、それがなかった。これからのマネジャーやトレーナーにとって、部活をやりながらも自分の活動を行う一つの見本になったのではないかと思います。多様性を認める時代にマッチした一人だと思っています。

オムロン株式会社
香西健太郎さん

(工学研究科修士2年)
橋本学研究室所属

オムロン株式会社

1933年、立石一真氏(1900-91)が創業。現在は体温計などのヘルスケア商品が一般的によく知られているが、総売り上げの半数近くを占めているのは制御機器事業であり、工場の自動化に使用されるセンサーやスイッチ、コントローラー、産業用ロボットなどは、世界中の製造現場で使用されている。本社は京都府。

香西さんは工学部機械システム工学科から工学研究科に進み、橋本学研究室でAI(人工知能)やロボットについて研究している。

入学後、ロボットアームを動かすハード系やソフトウェアのプログラミング、人間の感性を勉強する実験などを幅広く経験した。「機械などのハード系に興味を持っていて、プログラムを通じてロボットの動きを制御するソフトウェアがやりたい、と思うようになりました」と香西さんは話す。

3年生で橋本研究室に所属し、「アマゾン・ロボティクス・チャレンジ」や「ワールドロボットサミット」といった国際大会に挑戦し、「国際会議IWAIT」では最優秀論文賞の受賞など、幅広い知識や技術を身に付けた。また同研究室で5月に行われた世界初の「機能属性ラベル付き3次元モデルデータベース」の公開

ではホームページの管理に携わった。

授業以外の活動にも積極的に参加。工学部で毎年行われる学生プロジェクトでは、3年生の時にチームリーダーを任せられ、企業賞に選ばれた。

「これまででも自分なりに『最先端のことをやろう』と研究してきました。入社後も5年、10年の先を見据えた新しい技術開発を行いたい。今後、人間の代わりに仕事をするAIが出てくると思います。人が、人間の行うべき作業は必ずある。機械と人間のバランスを取った技術を考えたいです」と香西さん。オムロンも企業理念の一つに「人間の尊重」とあり、考え方が似ていると感じて応募した。

今後就活する後輩には「ネットでの情報収集など、事前準備が大事です。インターンシップに参加して視野を広げるなどのさまざまな経験が、面接の際、説得力のある話に結び付きます」と話した。

「最先端のことをやろう」と研究してきました。
就職してから5年後、10年後の先を見て
新しい技術開発をしたい。



金融機関を志望したのは、
「個人のお客様と近い距離で
関わることができる」と思ったから。



INTERVIEW #3 HIROKI MIYAGAWA

りそなグループ
宮川大輝さん
(経済学部4年)
小林毅ゼミ所属

りそなグループ

本社を東京と大阪に置く都市銀行。日本の商業銀行で、唯一フルラインの信託業務を併営する金融機関。

中京大学に入学したのは資格対策講座が充実しており、経済学部では社会で必要なことをキャリアマネジメントなどの授業を通して学べると思ったから。早いうちから就職を意識して、部活動と資格講座を両立させた。

部活動は高校から始めた弓道部に所属し、参段の腕前。副部长として「後輩には技術面の指導だけでなく、練習の準備や礼儀の指導に力を入れています」と話す。

一方で、段階を経て資格試験に臨んだ。1年生の春休みには2級FP、3年生でCFP®(世界で認められた共通水準のファイナンシャル・プランニング・サートビスを提供できる証明)の試験に全6課目合格。3年生の9月には1級FPに合格した。1級FPはCFP®の試験に合格することで免除される科目もあり、CFP®に合格している人とそれ以外の人では合格率に大きな差が生まれる。計画的な勉強が試験合格につながった。3年生の4月から始まったキャリアマネジメントの授業をきっかけに就職について本格的に考え始めた。金融機関を志

望したのは、「個人のお客様と近い距離で関わることもできる」と思ったから。メガバンクは海外に向けた事業展開を進めており、りそな銀行も海外事業展開を行っているが、それ以上に中小企業や地域に目を向けていると感じました。部活を通して人と接する楽しさを学び、そのような仕事に就きたいと思いました」と話す。秋にはりそなグループで短期インターンシップを経験した。

面接では部活動の話をするが多かった。意識したことは面接用の話をするのではなく、会話をすること。「弓道では50〜60代の方と話す機会も多く、いろんな年代の方と話すことに慣れていたのもよかったと思います」と振り返った。将来は「法人に事業提案などを行うなど、地域の企業と関わっていききたいです」と希望を語った。

最後に「資格試験に合格するためには『計画性』が必要です。早くから目標を見つけること。また勉強は地道に取り組むことが合格への近道になると思います」とアドバイスをくれた。

裁判所事務官
渡邊将圭さん

(心理学部4年)
馬場史津ゼミ所属

裁判所事務官(総合職採用)

最高裁を含む全国の裁判所等でさまざまな事務処理や裁判の円滑な進行と裁判所の運営をサポートする職業。今年度の裁判所職員総合職試験(大卒程度区分)では、申込者611人中最終合格者は全国で7人だった。

渡邊さんが裁判所事務官を目指したきっかけは、2年生の3月に裁判所職員総合職試験に現役合格した大林勝太さん(2017年度法学部卒)の話を聞いたことだった。「裁判所は日本に不可欠な存在で、民間企業ではできない仕事であることにとても興味を持ちました」と話す。

高校時代、部活も勉強も中途半端で悩んでいたときに、支えてくれた恩師と呼べる先生と出会った。その先生が世界史を担当していたことから、センター試験の世界史で100点満点を取ることを約束し、見事目標を達成。「このとき初めて、努力をすれば必ず結果は出ることを実感しました。この経験が自分の中のターニングポイントでした。」

心理学部を志望したのは、恩師のように誰かを支える仕事がしたいと思い、臨床心理士になるためだった。しかし資格講座説明会で公務員や民間企業などさまざまな業界の話を聞き、臨床心理士よりも幅広く、多くの人と関わり支えることができる公務員に興味を持つ。その後、前出の大林さんの話で裁判所事務官という職業を知り、目指すようになった。

裁判所が国民にとって身近に感じてもらえるように新しい制度作りや活動を積極的に行っていきたい。

大学入学後は資格試験に挑戦し、宅地建物取引士、行政書士を取得。裁判所職員総合職試験に向けて、モチベーションが保てないときは勉強している仲間を見て気持ちを高めた。「一緒に目標に向かって

「就職後は、裁判所が国民にとって身近に感じてもらうように新しい制度作りや活動を積極的に行っていきたい」と意気込みを語った。

後輩に向けてのメッセージとして「目標は高く持つことが大切だと思います。目標を高く持ち、いろいろなことに挑戦して自信を付けてください」と語った。



今年の就職戦線振り返り～来年の展望～

就職活動の現状

現在の経団連主導の就活ルールでは、企業の会社説明会などの採用広報開始は3月1日以降、採用選考開始は6月1日以降となっているが、2021年卒の就職活動から、経団連主導では行わないことが決まった。今後は、政府主導で行われるが2021年卒の就職活動は2020年卒と同様に行うことが決まっている。2020年卒については採用広報開始は2019年3月だったが、企業はインターンシップという形で学生と接点をつくり、実際は就職活動が早期化していた。

学生の就職活動をサポートしているキャリア支援課・田口昇部長に 今年の就職状況や来年の展望について話を聞いた。

中京大学の今年の現状は？

3月の採用広報解禁と同時にエントリーや会社説明会、中には面接を行う企業もみられ、5月下旬～6月中旬にかけて内々定が始められました。**求人は増加傾向で、企業は積極的に採用に取り組んでいると思います。**現時点で、全ての報告がキャリア支援課に来ているわけではないですが、今年は例年と比べても内定率は高い方だと思います。

良い結果が出る学生とは？

第一志望に内定(内々定)している学生は「行動力」が高く、**3年生の夏から冬のインターンシップに積極的に参加している学生が多いと思います。**インターンシップに参加するということは、企業や業界をよく知り、自分がどんな仕事に就きたいかなど自分自身を知る必要があります。そういった学生は、**1年生の段階から学業以外にも一つのことに打ち込んでいたり、また、ボランティア、資格取得、部活動やサークル活動などさまざまなことに取り組んでいる学生が多く、**世代を超えて多くの人と関わり、情報収集をしています。自分なりに課題を持ち、取り組んできた学生は、成功も失敗も経験しています。そのプロセスで培ったことが評価されていると思います。

キャリア支援課の取り組みは？

今年は、夏のインターンシップに向けて早い段階で準備に取り掛かってもらうため、3年生の6月までに各種の対策講座を実施しました。**来年は東京オリンピック・パラリンピックの関係で、選考時期やインターンシップ実施時期に影響が出る可能性があります。**学生には早めの準備を心掛けてもらい、これから始まるキャリア支援課主催のイベントにぜひ参加してほしいと思います。

また、現在も企業からは2020年卒対象の追加求人がキャリア支援課に届いています。就職活動を継続している学生については、継続的にサポートを実施しています。まずは相談にお越しください。

OPEN CAMPUS 2019



名古屋キャンパス

NAGOA



豊田キャンパス

TOYOTA

中京大学オープンキャンパス2019 名古屋、豊田両キャンパスで来場者数は過去最多



キャンパスラジオ・アウラステーション



晴地舞の演舞

入試や学生生活、各学部について相談できるブースが各所に設置され、高校生・保護者たちが個別で相談に訪れる様子も数多く見られた。また来年4月に新設される国際学部の説明会にも多くの来場者が訪れ、賑わっていた。

名古屋キャンパスでは「よさこいクラブ晴地舞」の演舞が行われた。図書館・学術棟の1階では、工学部生が研究室ごとに最先端の研究紹介やデモンストラし、高校生が研究を体験していた。

「オープンキャンパス2019」が名古屋キャンパスで7月13日、14日、豊田キャンパスで7月21日に開催され、来場者数は両キャンパス合わせて1万89人（名古屋8339人、豊田1750人）で過去最多となった。高校生や保護者らはパンフレットの写真やホームページでは伝わってこない講義の雰囲気を感じ、在学生と直接話をするなど、キャンパス巡りを満喫していた。

学部学科の説明では、各学部教授らによる模擬講義や、学生自ら研究内容や学生生活、就職活動についてプレゼンテーションを行うなどして講義や生活の様子が伝えられた。



スポーツ施設見学バスツアー



スポーツ科学部の学部学科説明

中京大学スポーツミュージアムを開館 10月23日から



中京大学の関係者でオリンピック・パラリンピックに出場した選手は述べ133人（2019年9月現在で、指導やスポーツ科学の面からオリンピック・パラリンピックを支えてきた教員も多く存在する。ミュージアムではそれらの人たちについても順次紹介する。

中京大学スポーツミュージアムが10月23日、豊田キャンパス3号館（大体育館）に開館する。ミュージアムにはこれまでオリンピック・パラリンピックに出場した選手、指導者ら関係者や市民の人たちから寄贈・寄託されたメダルやユニホーム、当時の写真などを収蔵している。大学関係者だけでなく、一般市民の人たちも無料で入館できる。また、小・中学校や高校に教育活動の場として見学会などにも協力する。



Chukyo University Sports Museum

Anthony Lee Ervin

Swimming Clinic



梅村学園100周年記念講座 競泳オリンピック金メダリストが技術をレクチャー

「梅村学園100周年記念講座アンソニー・アービン水泳クリニック」が8月21日、豊田キャンパス屋外プールで開催され、中京大学水泳部員や県内中学・高校の水泳部員、梅村清英総長・理事長ら関係者など約150人が参加した。

アービンさんは2000年シドニーオリンピック、16年リオデジャネイロオリンピックの50メートル自由形で金メダルを獲得している。リオで再び獲得した35歳での金メダルは同種目では史上最年長。今回は名古屋米国領事館の招へいで同講座の開催に至った。

講座はアービンさんの「ドーン」など日本語の指示も飛び出し、和やかな雰囲気が始まった。アービンさんは腕や肩の動きをポジション姿勢の実演を交えて説明し、持論の筋肉の動きや泳法について熱く語った。アービンさんのしなやかな背中の動きには学生だけでなく、監督たちも驚きと感嘆の声を上げていた。最後には質疑応答の時間も設けられ、オリンピックでの喜び、プレッシャー克服方法などの話も披露された。

水泳部の佐々木祐一郎監督は「日本人は頭で考えて納得してから泳ぎや動きですが、アービンさんは感覚での動きをとても大切にする指導をしています。学生や高校生はもうんのこと、我々指導者にとっても良い刺激になりました」と話した。



ゲリー・シェイファー首席領事



安村仁志学長



アンソニー・アービンさん

① スポーツ科学部1年の大池悠斗さんが人命救助



スポーツ科学部1年の大池悠斗さんは、8月15日、合宿免許中に教習所職員の人命救助にあたった。大池さんが通っていたのは福島市にある自動車教習所「マツキドライビングスクール福島飯坂校」。教習を終えた他の8人と送迎バスで宿舎に戻る途中、信号待ちをしていた時に運転手が意識を失いバスが突然動き出した。バスはそのまま右に曲がり縁石に当たって停止した。大池さんは他の教習生と協力し、運転手を車外に降ろして心臓マッサージの救命措置、救急隊の要請などを分担して行い職員は一命を取り留めた。

大池さんは「最初は何が起ったかわからずとても怖かった。それでも教習生みんなで落ちついて対応しました。職員の方が助かってよかったです」と当時の状況を語った。

教習所の管理者からは安村仁志学長に「貴大学の建学の精神に則ったご指導のおかげです」と丁寧なお礼状が届いた。この教習所では本学の建学の精神の四大綱（ルールを守る・ベストを尽くす・チームワークをつくる・相手に敬意を持つ）を職員の教養として活用している。

② 名古屋市大学生消防団・中京大学分団 防災サーキットトレーニングを実施 学生、教職員70人が参加

名古屋市大学生消防団・中京大学分団は9月5日、名古屋キャンパスアレーナ211で「防災サーキットトレーニング」と題した防災訓練を、学生、教職員を対象に実施した。参加したのは午前の部と午後の部合わせて70人。訓練はサーキットトレーニング方式で行われ、参加者がそれぞれ行いたいコースを選択して実施した。

コースは4つで、初期消火コース（消火器、消火栓放水訓練）、応急処置コース（応急処置、AED、イーバックチェア、担架の使用方法、避難訓練コース（避難はしご降下訓練、垂直避難袋降下訓練、フルコース（前述の全てのコース＋トランシーバー訓練）。

参加者は、被災者の救出方法だけでなく、自身が被災者となった時にどう処置されるのかも体験した。指導にあたった中京大学分団の学生と、どのようにすれば安全で迅速な救出ができるのかを話し合う場面もみられた。



イーバックチェア運搬訓練



AED訓練



消火栓放水訓練

Student report

③工学部濱川研究室修士1年の久野さん IPA「未踏IT人材発掘・育成事業」に採択

工学部濱川礼研究室に所属する久野文菜さん（工学研究科修士1年）のプロジェクト「スペクトログラム生成による多重奏からの聴音支援システムの開発」が、独立行政法人情報処理推進機構（IPA）の「未踏IT人材発掘・育成事業」に本学で初めて採択された。

この事業は、経済産業省所管であるIPAが主催し「独自性・革新性があり、将来社会的にインパクトを与えイノベーションを創出する可能性を秘めたテーマを実現しようとしている若い逸材」を発掘するために2000年度から「未踏ソフトウェア創造事業」として開始。選ばれた個人はクリエイターと呼ばれ、自らが提案するテーマについて、プロジェクトマネージャー（PM）から指導、助言を受け、開発プロジェクトを実施する。

2019年度は6人のPMの下で募集され計21件が採択された。久野さんは首藤一幸PM担当プロジェクト（東京工業大学・情報理工学院准教授）の下で開発を進める。現在までに輩出してきた延べ1700人の優れたクリエイターたちは、既に様々な分野で活躍している。

④国際教養学部4年生の宮本葉月さんが ヨーロッパスポーツ科学会議で研究発表



左から富田特任助教、宮本さん、渡邊准教授



発表する宮本さんと聴衆

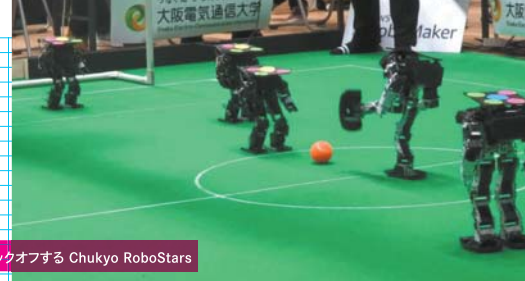
チェコ・プラハで7月3～6日に開催されたヨーロッパスポーツ科学会議（European College of Sport Science）で、国際教養学部4年生の宮本葉月さんが研究発表を行った。ヨーロッパスポーツ科学会議は、ヨーロッパをはじめとするさまざまな国々のスポーツ科学の研究者が一堂に会する年に1度の研究集会。参加者は約3000人。

宮本さんの発表タイトルは「Effect of participation in team sports during overseas study program on non-native language proficiency」。英語を母国語としない留学生を対象に、スポーツ活動へ参加することが英語学習の習熟度へ及ぼす影響を、宮本さん自身が米国留学中に実施したアンケート調査を基に

検証した研究で、ポスターを用いたプレゼンテーションと質疑応答が行われ、海外の研究者たちに向けて発表した。

指導教員の国際教養学部・渡邊航平准教授は「発表者は主に大学教員や大学院生であるため、学部生での発表は評価に値する。2年次から積極的に研究活動を行ってきたことが、今回の発表につながりました。語学面でも、日頃の英語学習や留学の成果を存分に発揮し堂々とした英語でのプレゼンテーションでした」と評価した。なお、渡邊研究室から渡邊准教授、富田彩特任助教、宮本さんの3題の研究発表が行われた。

④工学部学生選抜チームChukyo RoboStarsが ロボカップジャパンオープン2連覇 サッカー小型リーグ(ヒト型)で、予選は無失点



キックオフする Chukyo RoboStars

ロボカップジャパンオープンが2019年8月16～18日、新潟県長岡市のアオーレ長岡で開かれた。中京大学工学部学生選抜チームChukyo RoboStarsがサッカー小型リーグ・ヒト型(SSL-Hリーグ)で優勝し、2連覇を果たした。中京大学としては4回目の優勝となった。

ロボカップは、自分で考えて動く自律移動型ロボットによる競技会。「2050年までにサッカーの世界チャンピオンチームに勝てる、自律移動のロボットのチームを作る」という夢に向かって行われている。人工知能やロボット工学などの研究を推進し、さまざまな分野の基礎技術として波及させることを目的としている。

ロボカップジャパンオープンは、ロボカップサッカー・ロボカップレスキュー・ロボカップ@ホームの3部門から構成され、ロボカップサッカー部門には5リーグ・24チーム、

155人の選手が出場した。このうちSSL-Hリーグには、工学部学生選抜チームChukyo RoboStarsなど5チームが出場した。

本リーグでは天井近くに設けられたテレビカメラからの画像信号を用いて、全自動の2足歩行ロボット3台からなるチーム同士が「見る」「考える」「動く」ことによりサッカーを行う。試合中は、コンピュータやロボットはもちろん、リモコンさえ触ることができない。

チームChukyo RoboStarsは、深層学習プログラムを搭載したBGM(豊田高専OBチーム)を退けるなど、全試合無失点で予選を通過。準決勝では17年度チャンピオンODENS(大阪電通大)と対戦し、本戦および延長戦でも決着がつかずPK戦に突入した。ここ数年でPK戦負け知らずのChukyo RoboStarsはペナルティキック(PK)を5本とも決めた。ODENSは1本目のPKを外し、Chukyo RoboStarsはPK戦を5-0で制した。

決勝戦は昨年準優勝の強豪Ai-Robotsとの対戦となったが、Chukyo RoboStarsは前半戦で1点を先取して後半戦でこれを守りきり、昨年に続く優勝を飾った。

チームChukyo RoboStarsは工学部「プロジェクト活動助成」と、人工知能高等研究所「共同事業プロジェクト」の支援を受けている。

キャプテンの神谷諭史さん(工学部4年)は、「卒業研究と就職活動でなかなか時間のとれない4年生メンバーが大半のチームをまとめあげ優勝に導くことができました。今後は研究成果をまとめ、工学部と人工知能高等研究所に報告します」と話した。



優勝した中京大学工学部選抜チーム Chukyo RoboStars

⑤名古屋市科学館との連携講座開催 子どもたちと虹色の金属結晶作り

最初に、ステンレスカップにビスマスチップを入れ電気コンロに載せ熱を加える。液体化させ、ビスマス湯を作り金属が溶ける様子を観察した。340℃になったところで加熱をやめ、ビスマス湯の中にピンセットを差し込んで静止し、結晶化するまで7分間待った。中には「もっと違う状態が見たいから」と10分間待ち大きな結晶を育成した男子高校生もいた。

最初の実験は今回のメインとなるもので、金属(ビスマス)を溶かして液体(ビスマス湯)にして、これを冷却する過程で結晶を育成するというもの。金属がわずかでも飛び散ったり、水滴が入るだけでも事故につながるため、各自が耐熱手袋とフェイスガードを装着した。

実験の指導を行ったのは工学部の田口博久教授ほか。田口ゼミの学生が各実験機に一人ずつ配置され、参加者のサポートを行った。300℃を超える液体化した金属を扱うため、中学生は保護者同伴での参加となった。今回は3つの実験が行われた。

人工知能高等研究所と名古屋市科学館の連携講座「虹色の金属結晶を育成しよう」が8月31日、名古屋市科学館の第1実験室で開催された。これは「最高の科学技術の子どもたちに! 大学教授と学ぶものづくり」をテーマに、中高生を対象に行われたもので、本学と科学館の連携事業は2013年から実施されている。100通以上の応募から抽選で選ばれた16組の親子が参加した。

ピンセットを引き上げると、色も形もそれぞれ違う結晶が出来上がった。結晶は「虹色金属結晶」と呼ばれ、赤、黄、青などに輝き、見る角度でも色が違う。参加者からは出来上がった結晶を、しっかりと観察していた。

次の実験では、結晶を引き上げた後のカップ内のビスマスを再溶解してビスマス湯を作る。カップ内でゆっくり固め、まだ完全に凝固していないカップ内の融液を別の容器へ移すと、参加者それぞれのカップの中には美しい結晶が現れた。



完成した結晶

Professor's report

[illegible]

展示会場

工学部・野浪亭研究室
イノベーション・ジャパン2019に出展

工学部の野浪亭研究室が8月29日、東京ビックサイト（青海展示棟）で開催された「イノベーション・ジャパン2019—大学見本市&ビジネスマッチング—」に出展した。

イノベーション・ジャパンは、国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）と国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）が主催する、年に一度の日本最大規模の産学マッチングフェアで、約500を超える大学等が出展し、大企業からベンチャー企業まで多くの来場者が訪れる。今年は2日間で1万4000人を超える来場者があり、関係する研究機関や各省庁の幹部級、国会議員等の視察もあった。中京大学は今回で3回目の出展となった。

野浪研究室は「自然由来炭素化合物の開発」と「生体模倣製造プロセスによる環境調和材料の開発」をテーマに出展。「生体模倣製造プロセスによる環境調和材料の開発」では新材料であるマリモ状のアパタイトに関する研究成果を、「自然由来炭素化合

物の開発」では竹炭や粉殻炭の新たな吸着性能などの研究成果を出展した。両研究成果は多くの論文発表も行われており、同時に特許出願も完了している。

来場した企業にも関心を持たれ、野浪教授と研究支援課の職員で約70社への説明や名刺交換を行った。イベントには先端共同研究機構長・人工知能高等研究所長で竹炭の共同研究者でもある長谷川純一教授も参加した。

来年度は2020年東京オリンピック・パラリンピック開催による利用制限で、愛知県の新国際展示場での開催が決まっている。

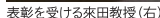


研究について説明する野浪教授



野浪教授(左)と長谷川教授

「日本スポーツとジェンダー学会」で学会賞を受賞



した」(日本スポーツとジェンダー学会HPより)

と思います」

Yoshiro Miyata

工学部・宮田教授 授業「メディアとグローバル社会」で
香港理工大学デザイン学科の学生らと協同プロジェクト

参加した鈴木真帆さん（工学部2年）は、「言葉の壁や文化の違いはあ

宮田教授は、「フイールドワークでは現場の人々から、地域の自然資源の価値とそれを生かす知恵を学びました。それを体験・展示会で一般の人にいか伝えるかを試行錯誤する中で、香港と日本の学生たちは、言葉だけでは伝わらない価値観や社会観を共有することができ、それが成長につながったと思います。この体験を生かして持続可能なものづくりに貢献してくれることを期待します」と話した。



梅村学園100周年記念寄付金 「中京大学古本募金」を開始

梅村学園100周年記念寄付金事業の一環として、「中京大学古本募金」が2019年8月1日から始まった。

「中京大学古本募金」は、書籍・DVD・CDなどの買い取り金額が全額中京大学への寄付金となる仕組みで、集まった寄付金はキャンパス整備、教育活動、研究活動、社会・地域連携事業、スポーツ活動などに活用される。

詳細を掲載した古本基金ホームページは、下記のQRコードもしくは「中京大学 古本募金」で検索できる。

◎古本募金の流れ

1.本・DVD・ゲームを梱包 ※合計5冊(5点)から送料無料

2.古本の集荷・仕分け・査定

3.中京大学古本募金へ 買い取り金額の寄付

詳しくはこちらの
QRコードから



左/市の現状について話す太田市長 右/メモを取って講演を聞く学生ら



豊田市高等教育活性化推進プラットフォーム

①人事交流 市が中京大学に職員を派遣

7月16日から1週間、豊田市高等教育活性化推進プラットフォームの一環で、豊田市の職員を行政職として受け入れる人事交流を実施した。豊田市から派遣されたのは、豊田市経営戦略課で大学連携業務を担当する矢藤敦基さん。中京大学では、豊田市との連携業務や経営戦略に関する業務を行う学園経営戦略部に配属された。

今回の人事交流は、豊田市と包括連携協定を締結していることから行われた。目的は、大学と豊田市の職員が相互に業務を経験することで連携を一層深めること。さらに「豊田市高等教育活性化推進プラットフォーム」や、これまで推進し

②豊田市長が講演

「ミライのフツをつくろう」 「豊田市のまちづくり」をテーマに

また、7月22日、太田彦彦豊田市長を招いた「ミライのフツをつくろう」豊田市のまちづくり」と題した講演会が豊田キャンパスで開かれた。中京大生のほかプラットフォームに参画している連携校の学生も聴講した。

同プラットフォームは、豊田市と市内の4大学等（中京大学、愛知工業大学、日本赤十字豊田看護大学、豊田工業高等専門学校）と、一般社団法人ツーリズムとよたで構成され、大学間の連携や、町づくりと学生のアイデア、教員の研究成果を生かして地域課題の解決を図ることを目的に活動している。

太田市長は「豊田市出身の人も、今住

てきた取り組みの発展も目指している。

人事交流期間中は、教職員対象のSD研修（豊田市総合計画関連及びプラットフォーム学内説明会）が行われた。

矢藤さんへの辞令交付式は同日、名古屋キャンパスで行われ、梅村清英総長・理事長から辞令が手渡された。

梅村総長・理事長は「豊田市にはこれまで大変お世話になっております。人事交流を経て、より関係が太くなるよう1週間頑張ってください」と激励。矢藤さんは「豊田市での知見を生かして、何かしら役に立てるように頑張りたいです」と意気込みを語っていた。

んでいる人も豊田市について知らないことが多いかと思えます。例えば公務員を目指す人、この地域で働きたいと考えている人は、地域のことを知っているかどうかが大事です。今日は豊田市の良いことも悪いことも含め知ってほしい」と話し、市内の施設や、市の現状、進めている政策などについて「知っていますか？」と質問を交えながら紹介した。

市長講演の後には、矢藤さんが市の仕事について紹介。講演会は公務員を目指す学生も参加しており、市職員としての経験を真剣に聞いていた。

矢藤さんは7月16日から本学に人事交流で派遣されて、この日が最終日だった。

交換留学生13人の帰国前に フェアウェルパーティーで別れを惜しむ

7月末に帰国する交換留学生のフェアウェルパーティーが7月12日、名古屋キャンパスの国際センターで開催され、留学生と親交のあった日本人学生も大勢参加し、別れを惜しんだ。

1年（または半年）間の交換留学を終えて帰国するのは13人。留学生らは一人ずつ、学んだ日本語で「たくさん友達ができ、本当に楽しかった。良い経験ができました」と挨拶した。

懇親会では、留学生へ寄せ書きや動画を贈るサプライズや、留学生が日本語とギターで弾き語りをするなどの企画もあり、最後までにぎやかな会となった。

初来日のマヒル・マナレさんは「日本は設備がとてきれいで驚きました。また日本で勉強したい」。ウォール・カラリンさんは「日本は3回目ですが、日本の文化についてさらに学ぶことができ、温泉や猫カフェに行けたことが思

い出です」と話していた。

同会は、留学アドバイザーの学生3人が企画・運営を行った。上村真穂さん（国際英語学部4年）、宮本葉月さん（国際教養学部4年）、松津萌華さん（同4年）は、「責任のある仕事に取り組むことで、仕事の進め方を学ぶことができました」「中京大学に来て良かった」と留学生に言ってもらえて本当にうれしかったと笑顔を見せていた。



上／カナダ選手を交えて行われた500メートルリレー
下／カナダと中京大の「C」をアピールして記念撮影



水泳カナダ代表が豊田キャンパスで合宿 子どもたちとの地域交流も

水泳の世界選手権大会が7月中旬、韓国・光州で開催されたのに合わせ、カナダ代表チームが大会に向けての直前合宿を、豊田キャンパスのプールで行った。参加したのは競泳とオープンウォーター種目のナショナルチームで、選手男女31人と指導者ら合わせて60人。一足早く競技が行われたオープンウォーターチームは6月30日に豊田入りし、約10日間、競泳チームは7月7～14日まで主に屋外温水50メートルプールで調整を続けた。

メンバーの中にはリオデジャネイロ五輪の女子100メートル自由形で金100メートルバタフライで銀メダルなど計4個のメダルを獲得したベニー・アレクシアク選手をはじめ、五輪メダリストも顔をそろえた。一行は連日、世界選手権での活躍を目標に真剣な面持ちで練習に取り組んでいたが、7月13日には地域交流イベントにも参加し、水泳を学ぶ子どもたちと楽しく泳いだ。

交流イベントに参加したのは、豊田市や名古屋市、碧南市などの63人の子どもたちとカナダ選手6人に相馬あい選手（スポーツ科4年）の計70人。相馬選手はイタリア・ナポリのユニバーシアード大会女子50メートルバタフライで銀メダルを獲得し、前日、帰国したばかり。

10人ずつ7チームに分かれ、50メートルずつ500メートルリレーで競い合った。ただ、ルールは速いチームが優勝というわけではなく、目標タイムを8分に設定し、いかにそれに近いタイムで泳ぐかを争った。

スタンドには子どもたちの水泳教室の指導者や保護者が詰め掛け、大きな声援を送った。各チームの第3泳者として泳いだカナダ選手や相馬選手も最後まで子どもたちにジェスチャーを交えて声を掛けていた。

カナダ代表チームの招へいに力をついた高橋繁浩・水泳部長（スポーツ科学部教授）は、「カナダチーム合宿は水泳部員の刺激にもなったし、交流した子どもたちにとってもめったに経験できない、良い機会になったと思います」と話していた。

上／集合写真 左下／発表後には交流会が行われた 右下／アビーさん



A LT 成果発表会 学術交流協定校の留学生が附属中京高校でインターン

留学生がインターン生として高校で外国語指導助手（A LT）を行うプログラムが5月から4週間、中京大学附属中京高校で実施され、その成果発表会が7月8日、中京大学名古屋キャンパスで行われた。附属校生、大学生など約90人が集まった。

同プログラムは中京大学が協定を結んでいる海外大学からインターン生として留学生を受け入れる制度で、今回はアメリカのアйдаホ州にあるポイシー州立大学に在籍するイガン・アビーさんが5月から4週間A LTとして附属高校へ、その後2週間は中京大学で日本語能力試験（JLPT）に向け日本語の勉強を行った。

会の冒頭で附属中京高校の伊藤正男校長は「大学と連携することで、高校生のうちから質の高い英語教育を受けることができます。こういった環境で学べることは大変貴重なことです。志を高く持つて英語以外の外国語も挑戦してみてください。世界でも活躍できる人になってください」と生徒に呼びかけた。

また、安村仁志学長は最初にロシア語で挨拶を行い、「A LTの期間はアビーさんにとっても生徒の皆さんにとっても良い経験だったと思います。これからも充実した生活を送ってください」と話した。

アビーさんは、担当したクラスの生徒との写真をスクリーンに映し出しながら、スポーツフェスティバル、野球観戦をしたことや、ホストファミリーと蒲郡市の竹島の観光に訪れたことなどを振り返った。「一番苦労したことは、会話することでしたが、私に合わせてゆっくり話してくれて少しずつ理解できるようになりました。素晴らしい経験をすることができました」と話した。

最後にクラスの代表者が「アビー先生の国のことや文化を教えてください」とうかがいました。先生と過ごした4週間はとても楽しい時間でした。また日本へ遊びに来てください」と英語でお礼を述べ、寄せ書きなどが贈られた。

アビーさんは来年5月に卒業予定のためポイシー大学に戻り、その後、日本で就職活動に取り組む予定。

鉄入れの儀



月に竣工した大体育館、その後7月に改修したフィットネスプラザに続き、この新6号館の新築が豊田キャンパスの施設整備計画の区切りとなります。新しい

新6号館の完成は2020年7月の予定で、500人収容の大講義室、ダンススタジオとしても利用できる多目的講義室、人工芝の雨天対応型多目的スペース、全長120mの屋内走路などが設置される。また豊田キャンパスの新たな学びの拠点として、居心地の良さや環境にも配慮。ドライミスト、自然通風、自然採光などの導入も予定されている。

豊田キャンパスで新6号館起工式

新6号館の起工式が6月3日、豊田キャンパスで行われ、梅村清英総長・理事長、安村仁志学長をはじめ学園関係者、工事関係者など50人が出席した。式では梅村総長・理事長らによる鉄入れの儀が行われた。

梅村総長・理事長は「2018年2



「CHUKYOイーグルデー」 毎月第一金曜日に 職員がイーグルウェア着用

毎月第一金曜日に職員がイーグルウェア（写真）を着用し勤務する「CHUKYOイーグルデー」が7月5日に新設された。「CHUKYOイーグル」は中京大学スポーツのシンボルで、「ルールを守り、チームを敬い、どのような困難も乗り越え、高みを目指す勇氣」を象徴し、チャレンジ精神を表すもの。

体育会クラブへの参加、不参加に関わらず、建学の精神「学術とスポーツの真剣味の殿堂たれ」の実現を目指して、全学生に「CHUKYOイーグル」を浸透させ、スポーツへの関心をこれまで以上に高める活動の一環として「CHUKYOイーグルデー」が定められた。

豊田キャンパスにある金栗四三さんの書

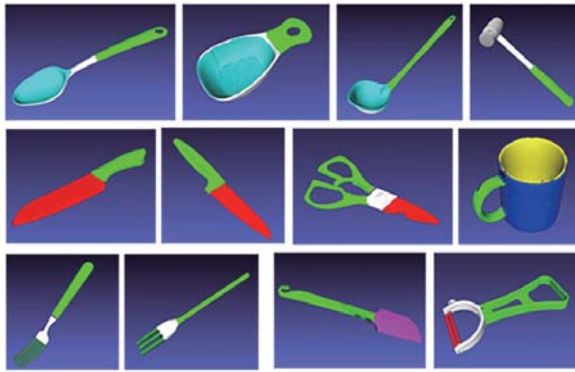
NHK大河ドラマ「いだてん」の影響で話題に

豊田キャンパス14号館奥の展示スペースに飾られていた、日本人初のオリンピック選手、「金栗四三さんの書」が教職員や学生たちの間で話題になっている。NHK大河ドラマ「いだてん」の影響では、と注目されている書には「体力 氣力 努力」と金栗さんの信条が書かれており、署名は「為梅村清明氏 昭和五十五年六月 金栗四三」とある。書は、学校法人梅村学園の初代理事長で中京大学を創立した梅村清明先生に贈られたもので、と推測されている。

清明先生の長男で梅村学園理事長を引き継いだ梅村清弘名誉理事長の著書には、「私が中学1年の頃、金栗さんが家に泊まりに来られた」という記述もあることから、長距離走の選手だった清明先生と金栗さんとは古くから交流があり、書が贈られたとみられている。

に尽力し、日本のマラソン界の発展に大きく貢献したことから「マラソンの父」ともいわれ、今年のNHK大河ドラマ「いだてん」では中村勘九郎が演じている。

書は、今秋以降、豊田キャンパスに開館するスポーツミュージアムで管理されることになった。金栗さんは熊本県出身。東京高等師範学校（現・筑波大学）の学生だった1912年に、スウェーデンで開かれた第5回オリンピック・ストックホルム大会のマラソンに出場、1920年アントワープ（ベルギー）大会、1924年パリ（フランス）大会と計3回五輪に出場している。東海道路伝や箱根駅伝の開催



工学部 世界初の機能属性ラベル付き

3次元モデルデータベースを公開

「モノの「機能」を認識するロボットA」研究の加速に寄与

工学部・橋本研究室と「国立研究開発法人産業技術総合研究所（産総研）」と「国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）」は、日用品などモノの「機能」認識の研究に利用できる、機能属性ラベル付き3次元モデルデータベース（以下・3次元データベース）を構築した。

コップやスプーンなどの日用品には、「つまむ」「すくう」など、部分ごとの役割がある。今回の3次元データベースでは、メッシュや点群などで表現された3次元物体の形状モデルと、モデルの部分ごとに付与された各機能を表す「つま

む」「すくう」などの属性ラベルからなっている。このデータを利用することによって、Deep Learningをはじめとする機械学習に基づく機能認識アルゴリズムの研究やシステムの試作が容易になり、同研究分野の一層の発展が期待される。

橋本研究室では、これまでに機能認識技術やロボットや動作生成技術など、機械学習に必須な大量のデータセット作成支援技術などを開発してきた。その性能は、全自動の「お茶会ロボット」でも実証されている。

訃報

中京大学学長、梅村学園理事長などを歴任
小川 英次 名誉理事長逝去



梅村学園名誉理事長の小川英次先生が7月4日、老衰のため88歳で逝去されました。名古屋市千種区のいちやなぎ中央斎場で葬儀・告別式が営まれ、約200人が参列しました。

小川先生は名古屋大学の経済学部部長、経済学研究科長（併任）等を歴任した後、1994年4月に中京大学経営学部教授に就任。大学院経営学研究科長等を経て、2000年4月から07年3月の定年退職まで7年間学長を務めました。

この間、授業改革のため全学規模のプロジェクト委員会を設置して継続的に取り組み、学生の意見を改革に反映させるため学生との懇談会も行い、「教学上の問題点発見と解決への対応」を積極的に行いました。

2011年4月から13年9月までは梅村学園の理事長を務め、変化のマネジメントを提唱、コンプライアンスの確立などに努めました。同年10月には名誉理事長の称号を授与されています。

小川先生は名古屋大学工学部機械学科、同経済学部経営学科を卒業後、同大学院経済学研究科修士課程、同博士課程を修了して経済学博士の学位を取得。専門分野は生産管理論で、特に中小企業問題に詳しく、日本中小企業学会会長を1992年10月から3年間務めるなど、各種の学会活動、学外委員等にも従事しました。2010年4月には瑞宝重光章を受章。逝去された日をもって、正四位に叙されました。

School of Global Studies Starts April 2020

2020年4月、国際学部^{*}スタート!

これまでの日本の大学における国際学系の学びは、多くが語学の習得に費やされ、留学もその延長上にありました。

中京大学国際学部は、こうした常識にとらわれず、全く新しい国際学の教育体系を構築。1セメスターの留学を経験し、国際学の学びのベースとなる英語実践力を1年次に習得します。

その上で、世界的視野と確かな語学力をもって「人文科学」と「社会科学」にわたる専門の知識・能力を複合的に習得する新しい学部が2020年4月誕生します。

■ 国際学科 ■

国際経済学専攻 | 国際政治学専攻 | 国際人間学専攻 | GLS専攻

■ 言語文化学科 ■

英米学専攻 | 複言語・複文化学専攻

【受験生向けホームページ】<https://nc.chukyo-u.ac.jp>

中京大学ネットキャンパス

検索

※2020年4月設置

3月で卒業される皆様へ

中京大学の広報誌やスポーツマガジン等、広報課が発行する広報物は、卒業後は希望された方だけに配送しております。「卒業後も送ってほしい」などのご希望がありましたら、コードを読み取り、登録をお願いいたします。

学園情報・広報誌等お申し込みフォーム



アンケートにご協力ください

より良い広報誌制作のために、アンケートのご協力をお願いいたします。なお、回答していただいたことについては、広報誌改善以外のことには使用しません。

アンケート回答フォーム



挑戦する大学



中京大学
CHUKYO UNIVERSITY